

報道関係者各位

2026年4月10日
株式会社ワークスアプリケーションズ

小田急電鉄、新リース会計基準対応で「HUE Asset」を追加採用 グループ30社への一斉導入を見据え、「HUE」シリーズを統合活用

株式会社ワークスアプリケーションズ(本社:東京都千代田区、代表取締役CEO:秦修、以下 WAP)は、小田急電鉄株式会社(本社:東京都新宿区、取締役社長:鈴木滋、以下 小田急)が、固定資産管理システム「HUE Asset」を採用したことをお知らせいたします。今回の採用により、小田急はグループ30社における新リース会計基準対応を「HUE」で一元化します。これまで財務会計領域で活用してきた「HUE」シリーズとの高い連携性を活かし、業務負荷の軽減を図ります。



【採用の背景】グループ横断でのリース管理体制を検討

小田急は、鉄道、不動産、レジャー・ホテルなど多岐にわたる事業を展開しています。こうした事業特性から、不動産の賃貸借契約が多く、グループ30社全体で新リース会計基準の影響が見込まれていました。特に、不動産をグループ会社や小売テナントへ転貸するケースも多く、サブリースに伴う会計処理の複雑化が課題となっていました。「HUE Asset」はこれらの要件に標準機能で対応できることに加え、他の鉄道事業者における導入実績も評価され、採用に至りました。

【期待される効果】グループ30社の対応を集約し、制度対応の負荷を軽減

グループ間の不動産転貸を行う企業では、新リース会計基準への対応にあたり貸手・サブリース機能が求められています。「HUE Asset」はこれらの機能を標準搭載しており、新リース会計基準対応に伴う複雑な会計処理を効率的に行えます。また、「HUE」シリーズで導入済みの財務会計領域と仕訳・組織データを自動連携することで、システム構築や運用にかかる負担を抑えます。これにより、小田急のグループ30社におよぶ新リース会計基準への対応を、業務負荷を抑えながら確実に進めることが可能になります。

<小田急電鉄株式会社様からのコメント>

小田急では、新リース会計基準への対応を見据え、グループ全体でのリース管理のあり方を検討してきました。すでに導入している「HUE」シリーズとの親和性に加え、サブリースを含む契約形態への対応や、グループ各社への展開を想定した運用が可能である点を評価し、「HUE Asset」を採用しました。今後は、制度対応を着実に進めるとともに、グループ全体でのリース管理の高度化につなげていきたいと考えています。

【HUEについて】

HUEは、日本の大手企業向けに開発された国産ERPで、お客様の声で成長し続けることで、業種や業態を問わず幅広い業務要件に対応しています。6,700以上の標準機能を備え、RFPに対するフィット率は97%*を誇ります。2,400社以上で導入された実績が、その信頼性と高い評価を支えています。

*フィット率97%は当社基準によります

HUE製品ページは[こちら](#)

【ワークスアプリケーションズについて】

ワークスアプリケーションズは、1996年に日本発のERPパッケージベンダーとして創業。ノーカスタマイズや無償バージョンアップなど革新的なソリューションで、国内大手企業を中心にお客様の成長を支援してきました。個が持つ可能性を信じ、企業と個の価値を最大化する「成長エンジン」となることを目指し、「作業」を「創造」に変え、「仕事」を楽しくすることを追求していきます。

株式会社ワークスアプリケーションズ サイト <https://www.worksap.co.jp/>

*会社名、製品名およびサービス名は各社の商標または登録商標です。

*本リリースに掲載された内容は発表日現在のものであり、予告なく変更または撤回される場合があります。また、本リリースに掲載された予測や将来の見通しなどに関する情報は不確実なものであり、実際に生じる結果と異なる場合がありますので、予めご了承ください。

■本件に関するお問い合わせ先

TEL:03-3512-1400 FAX:03-3512-1401 Email:pr@worksap.co.jp

株式会社ワークスアプリケーションズ 広報担当